

田中復興大臣記者会見録

(令和元年9月18日(水) 18:13～18:18 於) 南相馬市第1会議室)

1. 発言要旨

本日は、いわき市、広野町、楡葉町、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、南相馬市の市長及び町長、そして議長さんなどに就任の御挨拶と、意見交換させていただきました。

総じて、復興はまだ道半ばである、また、復興をさらに進めるためには、復興・創生期間後も引き続き復興庁の支援をお願いしたいという旨のお話がありました。

そうした中でも、住民の方の帰還状況がまだまだこれからであるなど、復興の進捗にも差があるというお話がございました。本日伺った地元の課題や復興にかける思いをしっかりと受けとめ、被災者に寄り添いながら一日も早い被災地の復興に向けて全力で取り組んでまいりたいと思います。

また、復興・創生期間も残り1年半となっております、被災地の御要望や実情を踏まえ、これまでに実施した復興施策の総括を行い、年内には復興・創生期間後の復興の基本方針を私が取りまとめたいと、このような思いです。

福島復興・再生には中長期的な対応が必要です。復興・創生期間後も国が前面に立って取り組んでいく所存であり、現場主義を徹底し、被災者に寄り添いながら、この福島県の皆様方に寄り添いながら頑張っていくことを、発展をさせていくことをお約束したい、この思いでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

2. 質疑応答

(問) 復興庁の後継組織についてお伺いしたいんですけども、今後の具体的なあり方ですか制度であるとか、今後のスケジュールですか、これについて大臣のお考えについてお聞かせください。

(答) 各市町村ごとには、もう地元の皆さんのほうがよく御存じかと思いますが、それぞれに特徴のある復興の事業を進めてまいりたいと思っております。ただ、やはり帰還が進まない地域、また避難が引き続き続くような地域については、後1年半という私たちが申し上げる数字が、やはりこれからというときに、なかなかやはり難しい複雑な状況があるかと思っておりますので、先ほど申し上げましたように、これからのことはこれから相談させていただきます。

ただ、申し上げましたように、地元の御意向を最大限尊重して、一定の今後の形を決めてまいりたいと思っておりますので、そういうふうに約束させていただきたいと思っておりますので、申し上げた

ところでございます。

(問) 大臣、今日はお疲れさまでございました。今日8つの市町を回られてみて、実際に肌で感じたこと、どんなことがあったのか、あるいは双葉駅をご覧になって、どんな所感を抱いたのか、その2点をお伺いしたいと思います。

(答) 自治体の、関係自治体の皆さんが必死になって頑張っておられるなということを、つくづく肌身をもって感じたところです。

また、先ほど申し上げたように、自治体ごとに相当なやはり状況に差異があるものですから、もう一つ言えば総体的に道半ばと、これからしっかりとやはり復興に向けて頑張っていかなければいけないなど、復興大臣としてもそのように感じたところです。

(問) 大阪市の松井市長が、原発の処理済み水について大阪湾での放出を容認する考えを示したわけですが、これについて大臣、いかがお考えでしょうか。

(答) ちょっとこのコメントについては申しわけございません。松井市長からもよく話を聞いておりませんので、この場では申し上げられませんので、恐縮でございます。

(以 上)